

確かめプリント【中学校二年生】読むこと①



年 組 番 名 前

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ほんとうは、三月にはまだ山の春は来ない。三月春分の日というのに、山の小屋のまわりには雪がいつぱいある。雪がほとんどに消えるのは五月の中ほどである。つまり、それまで山々にかぶさっていた、氷のように冷たい空気が、五月頃になると、急に北の方へおし流されて、もう十分あたたかくなっている地面の中の熱と、日の光とが、にわかには働きだして、一日一刻も惜しいような山の春があらわれ、^{また}又たちまちそれが夏にかわってゆくのである。東北の春のあわたしきは、リンゴ、梅、^{もも}梨、桜のような、いわゆる春の花の代表が、前後する暇もなく、一時にぱつと開いて、まるで童話劇の舞台にでもいるような気を起こさせる。これは四月末のことであって、三月にはまだその自然の花々は固い木の芽の中にねむっているのだが、雑誌の三月号といえば、もう誰でも春の話をするにきまっているし、また事実、上野公園あたりの彼岸桜の^{つぼみ}蕾は毎年きまつてはころびはじめ。日本の国は南北に長いので、季節がこんなにずれていて、おかしいようでもあり、又それがおもしろくもおもえる。北の方では^{まじ}ラッセル車が出るといのに、南の方では桃の花が村々にのどかに咲く。

自然の季節に早いところとおそいところとはあっても、季節のおこないそのものは毎年規律ただしくやってきて、けっしてでたためでない。ちゃんと地面の下に用意されていたものが、自分の順番を少しもまちがえずに働きはじめる。木の芽にしても、秋に木の葉の落ちる時、その落ちたあとにすぐ春の用意がいと生まれ、しずかに固く戸をとじて冬の間を待っている。まったく枯れたように見える木の枝などが、じつさいはその内部でかっぱつに生活がたのしくおこなわれ、来年の花をさかせるよろこびにみちているのである。あの枯れ枝の梢を冬の日に見あげると、何というその枝々のうれしげであることだろう。

さて、山の三月は雪でいっぱいだが、それでも、もう冬ではなくて春の一部にはちがいないので、雪は降っても又目立って解ける。零下一〇度程度の寒さはすくなくなり、屋根からは急にツララがさかんにぶらさがる。ツララは極寒の頃にはあまり出来ず、春さきになって大きなのが下がる。ツララは寒さのしるしでなくて、あたたかくなりはじめたというしるしである。ツララの画を見ると寒いように感じるが、山の人^らがツララを見ると、おう、もう春だっちゃ、と思うのである。

(高村光太郎「山の春」による。)

——線部 「あの枯れ枝の梢を冬の日に見あげると、何というその枝々のうれしげであることだろう。」とありますが、筆者がこのように感じた理由を説明したものととして最も適切なものを、次の1から4までのの中から一つ選びなさい。

- 1 まだ冬であるにもかかわらず、春が来たと勘違いした木の枝が芽を出した様子を見つけたから。
- 2 枝々が冬の間^{すべて}の活動を止めていることを、ゆっくりと休んでいるようだと感じ取ったから。
- 3 葉が全て枯れ落ちてしまったことを、枝々が身軽になってすっきりしたように受け止めたから。
- 4 枯れたように見える枝も、内部では花を咲かせる準備を生き生きと進めていると想像したから。

確かめプリント【中学校二年生】読むこと②



年 組 番 名 前

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「ここまでのあらすじ」 主人公の「おれ」は、数学の教師として東京から四国に来たが、初めての授業に戸惑ったり、興味の
ない骨董（まじこつどう）を売り込まれたりする日々を過ごしていた。

ある日の晩大町（おおまち）と云う所を散歩して居たら郵便局の隣りに蕎麦（そば）とかいて、下に東京と注を加えた看板があった。おれは蕎麦が大好きである。東京に居った時でも蕎麦屋の前を通って葉味の香いをかぐと、どうしても暖簾（のれん）がぐぐりたくなった。今日までは数学と骨董で蕎麦を忘れて居たが、こうして看板を見ると素通りが出来なくなる。ついでだから一杯食って行こうと思つて上がり込んだ。見ると看板ほどでもない。東京と断（こと）わる以上はもう少し奇麗（きれい）にしそうなものだが、東京を知らないのか、金がないのか、滅法（めっほう）きたない。豊は色が變（かわ）つてお負（ま）けに砂でざらざらして居る。壁は煤（すす）で真黒だ。天井はランプの油煙（あぶらえん）で、燻（すす）ぼつてるのみか、低くつて、思わす首を縮めるくらいだ。ただ麗々（きれい）と蕎麦の名前をかいで張り付けたねだん付けだけは全く新しい。何でも古いうちを買つて二、三日前から開業したに違いなからう。ねだん付の第一号に天麩羅（てんぷら）とある。おい天麩羅を持つてこいと大きな声を出した。するとこの時まで隅の方に三人かたまつて、何かつるつる、ちゅうちゅう食つてた連中が、ひとしくおれの方を見た。部屋が暗いので、ちよつと気がつかなかったが顔を合（あ）せると、みんな学校の生徒である。先方で挨拶（あいさつ）をしたから、おれも挨拶をした。その晩は久し振（ぶり）に蕎麦を食つたので、旨（うま）かったから天麩羅を四杯平（たいら）げた。

翌日何の気もなく教場（まがら）へはいると、黒板一杯ぐらいな大きな字で、天麩羅先生とかいてある。おれの顔を見てみんなわあと笑つた。おれは馬鹿馬鹿しいから、天麩羅を食つちや可笑（おか）しいかと聞いた。すると生徒の一人が、しかし四杯（よっぴ）は過ぎるぞな、もし、と云つた。四杯食おうが五杯食おうがおれの錢でおれが食うのに文句があるもんかと、さつさと講義を済（ま）まして控所（ひかえじよ）へ帰つて来た。十分立つて次の教場へ出ると一つ天麩羅四杯也（なり）。但し笑（た）う可（べ）らず。と黒板にかいてある。さつきは別に腹も立たなかつたが今度は

癪しかくに障さわった。冗談も度を過こせばいたずらだ。焼餅やきもちの黒焦くろこげのようなもので誰も賞ほめ手はない。

(夏目漱石『坊っちゃん』による。)

(注1) 骨董ぼんどう＝古い絵やつぼなどで値打ちのあるもの。

(注5) 麗々れいれい＝派手で人目につくさま。

(注2) 減法げんぽう＝度をこしていること。

(注6) 教場きょうじょう＝教室。

(注3) 油煙あぶらけ＝油が燃えるときに出る、黒い細かな粉。

(注7) 四杯は過ぎるぞな、もし＝四杯は食べ過ぎではないですか。

(注4) 燻すすぼつてる＝煙で黒くなる。

(注8) 控所こうじょ＝職員室。

――線部③「一つ天麩羅四杯也。但し笑う可らず。」とありますが、これを見たときの「おれ」の心情を説明したものと最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 天麩羅蕎麦を四杯食べたことを繰り返して笑われ、恥ずかしい気持ちになっている。
- 2 自分の行動を繰り返してからかわれ、生徒のしつこい行動に腹を立てている。
- 3 何度注意をしても黒板に落書きされ、自信をなくして気持ちが落ち込んでいる。
- 4 好きでしていることを面白がられ、生徒に理解されず寂しく思っている。

確かめプリント【中学校二年生】読むこと③

埼玉県学力学習状況調査



年 組 番 名 前

次は、【詩】とその詩についての【感想の交流の一部】です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

レベル8

【詩】

祖母

三好達治
みよし たつじ

祖母は蛍をかきあつめて

桃の実のように合あわせた掌ての中から

沢山な蛍をくれるのだ

祖母は月光をかきあつめて

桃の実のように合あわせた掌ての中から

沢山な月光をくれるのだ

【感想の交流の一部】

木村

この詩に出てくる祖母は、優しい感じがするね。

石川

そうだね。「沢山な」、「くれるのだ」という表現から、孫を思う優しさが伝わってくるね。木村さんは、どの表現から優しいと感じたのかな。

木村

「桃の実のように合あわせた掌て」という比喩を用いた表現から、大事に包み込むようにしてそつと孫に渡す様子が伝わってきて、優しいと感じたよ。

【詩】 について説明したものとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 第一連と第二連とでは敬語の使い方が全く同じなので、人物の相互関係が捉えやすい。
- 2 第一連と第二連とでは文末の表現の仕方が異なるので、時間が経過していることが明確になる。
- 3 第一連と第二連とでは使っている言葉がほぼ同じなので、異なっている言葉の印象が強く伝わる。
- 4 第一連と第二連とでは行数が異なるので、音読したときのリズムの違いがきわ立つ。

確かめプリント【中学校二年生】読むこと④

年 組 番 名 前



海外に広がる弁当の魅力



カスクルト

アメリカのポックスランチやフランスのカスクルトなど、日本の弁当のように戸外に持ち出して食べることでできる食事は、昔から各国にあり、それぞれの国で親しまれています。そのような中、日本の弁当が海外の様々なメディアで取り上げられたり、国際的な弁当のコンクールが開催されたりしています。私たち身近にあり、特別なものではない弁当が、今、海外

〈シリーズ〉再発見！日本の文化

日本の文化の中には、海外でも広く知られているものがあります。例えば、「弁当 (bento)」、「漫画 (manga)」、「俳句 (haiku)」、「盆栽 (bonsai)」、「折り紙 (origami)」は、英語やフランス語などの辞書に載っており、海外で受け入れられていることが分かります。本シリーズでは、この五つの日本の文化を取り上げ、五回にわたって、その魅力を紹介していきます。第一回は、弁当です。

で話題になっているのです。弁当の一番の魅力は、小さな箱の中にいろいろな料理が詰められていることです。主食、主菜、副菜、時には果物までがきれいに収まっています。そのため、栄養バランスがよい食事として、健康志向の高まりとともに、海外でも注目されるようになったのです。トマトの赤色や卵焼きの黄色などをうまく並べて、鮮やかないろどりになるように工夫された弁当を見て、「まるで宝石箱のようだ」と言う海外の方もいます。

また、様々なデザインの弁当箱を好みに応じて選ぶことも、弁当の魅力の一つです。例えば、フランスのデパートの食器売り場でも、おしゃれでカラフルな弁当箱がたくさん売られています。さらに、料理をおいしく食べるための優れた機能をもつ弁当箱もあります。例えば、日本に古くからある「曲げわっぱ」という木製の弁当箱は、木が湿気を吸うので料理が腐りにくく、食べ物の風味が保たれるという利点があります。美しい木目や色合い、木の香りなども楽しめる「曲げわっぱ」は、海外でも広く知られています。

弁当は、誰かのために作ったり、皆で持ち寄って和気あいあいと食べたりすることもあります。こうした人とのつながりをもつことができるのも、弁当の魅力です。最近では、日本だけでなく海外でも、インターネットを利用して、弁当の作り方や詰め方について交流する人が増えています。住んでいる場所も年齢も異なる人たちが、情報を交換し、仲間を作り、楽しんでいるのです。

このように、様々な魅力をもつ弁当は、世界に誇ることができる日本の文化の一つなのです。

次回は、「漫画」を取り上げます。



曲げわっぱの弁当

1 2 3 4 5 「弁当」

問題用紙Ⅱの【全国中学生新聞】を読んで、あとの問いに答えなさい。

レベル9

「〈シリーズ〉再発見！ 日本の文化」にある、「日本の文化の中には、海外でも広く知られているものがあります。……第一回は、弁当です。」という文章（）について説明したものととして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 日本の文化の例を複数示すことで、読者が様々な国の文化と比較しながらこの紙面を読むことができるようにしている。
- 2 このシリーズで取り上げる内容を示すことで、読者が今後の掲載の見通しをもつことができるようにしている。
- 3 「海外に広がる弁当の魅力」の記事の要約を示すことで、読者が時間をかけずに新聞を読むことができるようにしている。
- 4 外国語の辞書に載っている言葉を示すことで、読者が海外と日本の言葉の意味の違いに気付くことができるようにしている。

